

春日神社御鎮座1300年式年大祭

10/21日に古式ゆかしく墓目の儀

寄稿 寺原八千代

わが郷土の守り神である春日
神社(延岡市恒富町)木村健男宮司の御鎮座1300年式年大

祭が今月20日(土)、21日(日)両
日にわたり催行されるといい
とです。



龜井神社で「墓目の儀」を行う川名修徳さん(平成26年2月23日)

川名修徳弓道範士8段が奉納

(県立延岡高等女学校同窓会・
藤蔭会会長)

初日は御神輿巡行と御神樂奉
納。翌日は午後1時30分から祭
典と、弓道範士8段の川名修徳
さんによる小笠原流弓馬術礼法
のお祓(はら)い儀式「墓目(ひ
きめ)の儀」が行われます。

平成26年2月に龜井神社祭礼
の折、延岡初の墓目の儀を見学
しました。この儀式は弓で的を
射するのですが、このような神
事が平安時代より脈々と受け継
がれていることに驚きと深い感
銘を受けました。

調べてみると、鏑(かぶらや)
とは、朴(ほお)の木や桐(きり)
の木を削り、中を空洞にして数
個の穴を開けたものです。その

ところ、「墓目鏑(カマメ)

」などと「蝦蟇(ガマ)」(がまがえ
る・ひきがえる)に用いられる
字が付いたのだろうと思いまし
た。

昔、武士たちは武芸を磨くた
めに「流鏑馬(やぶさめ)」とか
「笠懸(かさがけ)」「犬追物(い
ぬおうもの)」「狩(狩)」などを行つて
いたことは、歴史の学習やテレ
ビの映像、または歴史絵図など
で知っています。馬を使わな
い静かな弓の儀式があつたこと
は、龜井の宮の祭礼で初めて知
りました。

今月21日、再び「墓目の儀」が
古式ゆかしく行われることを楽
しみにしています。

形がカエルの目に似ていること
から、そう呼ばれているとか。
この矢が放たれ空中を飛ぶ
時、数個の開けた穴から風が入
り、うなりを発するということ
です。このうなりが邪氣を払い、
悪霊を退散させると聞きました。

白装束の片肌を脱がれ、約20
メートル離れた的に射るのです。矢は
うなり音をたてて的に命中。さ
すが日本一と感嘆いたしまし
た。

から、そう呼ばれているとか。
この矢が放たれ空中を飛ぶ
時、数個の開けた穴から風が入
り、うなりを発するということ
です。このうなりが邪氣を払い、
悪霊を退散させると聞きました。

